

IB インカレ 2017 プレゼンテーションに関するルール

2017 年 9 月 17 日

IB インカレ 2017 審査委員会

1. プレゼンにおける審査項目

合計 30 点で競う。審査項目と配点は以下とする。

- ① 適切な言語と非言語表現（スライド含む）によるわかりやすさ・・・10 点
- ② 論理的一貫性（結論までが一貫したストーリーとして伝達できたか）・・・10 点
- ③ 質疑応答における回答（回答内容，回答時間，表現の適切性など）・・・10 点

*以下の行為は減点の対象となる場合があるので注意すること。

- ・論文提出後に追加した文献やデータを明確に提示していない場合
- ・プレゼンの時間を守らない場合
- ・プレゼンファイルの提出が遅れた場合
- ・当日の審査員への配布物を指示通りに準備しなかった場合
- ・主催校，審査員の指示に従わない場合

*尚，パソコンやプロジェクターなどの機器の動作不良による不慮のアクシデントは減点の対象とはならない。

2. プレゼンテーション用ファイル（プレゼンファイル）の提出・共有について

- ・プレゼンテーション用ファイルは「マイクロソフトパワーポイント」のファイル形式で準備すること。当日の運営効率化のため，他の形式（Prezi や Keynote など）は認めない。
- ・ **12 月 4 日（月）21 時までに指定する共有フォルダ内にプレゼンファイルをアップロードする。締め切り時刻を過ぎての変更は一切認めない。遅延は減点対象になる場合があるため十分に注意すること。**
- ・ 指定の共有フォルダ
11 月下旬ごろに各ゼミのチーム代表者へメールにて連絡する。
- ・ ファイル名は論文提出と同様に「大学名__ゼミ名__チーム名」とする。プレゼンファイルの提出は，ゼミごとではなく **チームごとに行う**（慶應義塾大学井口研究会 A 班の場合，「keio_iguchi_A」とする）。
- ・ 容量は 25MB 以下とする。
- ・ 各チームは審査員への配布資料 30 部を印刷して当日会場に持参する。
- ・ **出場チームとオブザーバーは，共有フォルダより他のチームのプレゼンファイルをダウンロードの上，以下のいずれかの方法にて大会当日に準備しておく。**
 - ◇ ゼミ内で必要部数を印刷して当日持参する。

☆ パソコンあるいはタブレット（ipad など）を使用して当日プレゼン資料を表示する。尚，スマートフォンの会場での使用は一切認めないので注意すること。

3. 審査員の配置と審査方法

各審査員の持ち点は 30 点とし，全審査員の平均点をプレゼン評価点とする。

- ・ 午前の部では各予選会場に 2 ないしは 3 名の審査員を配置する。
- ・ 午後の部では全審査員が審査を担当するが，自身のゼミの審査は行わない。
- ・ 午前（予選）と午後（決勝）におけるプレゼン内容は原則として同一とするが，微調整，微修正は認める。

4. 時間配分

- ・ プレゼンテーションは 15 分間とする。開始後 15 分経過した時点で強制終了となる
- ・ 質疑応答は 10 分間とする。

5. 質疑応答におけるルール

- ・ IB インカレ出場学生（論文執筆者）は各会場の司会者の指示に従い，指定された場所に着席する（出場学生とオブザーバーの区別を明確にするため）。
- ・ 出場学生の質問を優先する（出場学生の積極的な質問が期待される）。
- ・ 出場学生からの質問がない場合，オブザーバーからの質問を受け付ける。
- ・ 大会の目的である「切磋琢磨の場の創造」という観点より，報告者の論文の質を高めることに資する質問を心がける。
- ・ 質問者は挙手の上，司会者による指名の後，所属ゼミと氏名を開示してから質問を開始する。
- ・ 時間内に 3 名程度の質問を受け付けられるように，冗長な質問と回答は避ける。
- ・ 1 回の挙手にて受け付ける質問は 1 問とする。
- ・ 公平を期すため，審査員は質問を行わない。
- ・ 出場学生，オブザーバーより質問がない場合に限り，審査員がコメントを述べることができる。（コメントの有無は審査員に一任する）。

6. 英語セッションにおける質疑応答について

- ・ 使用言語は英語とする
- ・ **各チームに対して質疑応答の中で 1 回のみ日本語で質疑応答を行う権利を与える。**
この権利は予選，決勝それぞれに 1 回とする。具体的には，英語での質問を十分に理解できない場合，あるいは英語での回答に窮する場合，「日本語で再度質問をお願いします」「日本語で回答いたします」と発言し，その質問に対してのみ日本語を使用できる。その選択権は発表者側にある。すべての質問者はまず英語で質問し

なければならない。但し、日本語の理解が不自由な留学生による質問に対してはこの権利は行使できない。この新ルールは質疑応答の質を高めることを目的としている。

7. 参加者の区分

出場学生

- ・・・論文執筆者（論文表紙に氏名記載のある学生）

オブザーバー

- ・・・出場学生と審査員を除くすべてのオーディエンス
具体的には、出場ゼミ所属の学生（2年，3年，4年），OBOG，
オブザーバー参加ゼミの学生（古川ゼミ、佐々木ゼミ）

以上です

審査員，主催校一同，皆さんの素晴らしいパフォーマンスに大いに期待しております！